

◆ 市債現在高とその推移 ◆

市債とは、道路や上下水道の施設整備など、一度に多額の経費を必要とするときに、銀行などから事業資金の一部を借り入れるものです。こうした施設は、長期間にわたって利用することができるため、公平性の観点から、現在の市民だけでなく、将来にわたって施設を利用する市民にも、その経費を負担していただくよう、約 20 年で返済しています。

近年は、地方交付税の制度が変わり、国の交付金総額が減ったことにより、建設事業以外の経費を補うため、市の財政上やむを得ず借り入れている特別な市債(特例債。いわゆる赤字市債。)である臨時財政対策債が増加し、平成 30 年度末現在高は約 227 億円で、一般会計の市債の現在高約 340 億円の約 67 パーセントを占めています。

現世代が多額の借金を残せば、将来世代の財政の自由度は狭められてしまいます。そのため、市では、中長期的な公債費負担を考慮しながら、計画的かつ弾力的に市債を活用していきます。なお、この 10 年間で約 101 億円の市債残高を減らしています。

《平成 30 年度末の市債現在高》

会計区分	金額
一般会計	339 億 8739 万円
水道事業	70 億 5632 万円
公共下水道事業	321 億 1006 万円
合計	731 億 5377 万円

《各年度末における市債現在高の推移》

